

## 前田家歴代を祀る神社（一）

塩谷 忠士

今回は加賀前田家歴代のご当主を祀る神社を調べました。加賀前田家の分家になる富山前田家、大聖寺前田家の歴代ご当主を祀る神社についても載せたいところですが、紙面の関係もあり、次号で紹介したいと思います。文末に前号の「金沢城ゆかりの神社」について新しく分かったことを追加します。

### 一、加賀前田家歴代を祀る神社

#### 一―一、尾山神社 金沢市尾山町一―一 旧別格官幣社

主祭神…前田利家公、正室松子命

明治六年（一八七三）旧金谷出丸に卯辰山麓の卯辰八幡宮から前田利家公を遷座する。卯辰八幡宮は慶長四年（一五九九）二代利長公が越中守山海老坂八幡（物部八幡宮）と氷見阿尾城鎮座榊葉神明宮を勧請し、表向きはこの二神を祀り、その実は利家公を祀る。尾山神社への遷座にあたり物部八幡大神は相殿に祀られたが半年後に削除された。撰社は金谷神社、末社は卯辰八幡宮から榊葉神明宮、少彦社、稻荷社を遷座するが、末社三社は昭和十二年（一九三七）宇多須神社へ奉還され、境内社は現在まで撰社金谷神社のみとなった。平成十年（一九九八）に利家公の正室お松の方を合祀する。

一一二、金谷神社 金沢市尾山町一一一

主祭神…前田利長公、以降十七代までのご当主と正室・夫人

尾山神社の境内摂社で二代利長公から十四代慶寧公までのご当主とその正室、明治以降に家督を継いだ十五代利嗣氏、十六代利為氏、十七代利建氏とその夫人を祀る。利長公は波着寺の八幡宮に祀られていたものを神仏分離に際し卯辰八幡宮の相殿に祀る。利常公は卯辰八幡宮で末社天満天神として祀られていた。二神は明治六年（一八七三）ともに尾山神社に遷座し、相殿として摂社金谷神社が創立される。明治十二年（一八七九）慶寧公まで歴代ご当主を祀る祖霊社を尾山神社境内に創立し、同十四年（一八八一）摂社金谷神社に合祀の上で祖霊社社殿に移転する。

一一三、尾崎神社 金沢市丸の内五―五 旧郷社

主祭神…天照大神、徳川家康公、前田利常公

寛永十七年（一六四〇）、四代光高公が東照権現勧請の許可を幕府に得て、金沢城北の丸に社殿造営を初め、同二十年（一六四三）に上野寛永寺から勧請し落成する。明治七年（一八七四）に天照大神と三代利常公を合祀し、同十一年（一八七八）現在地に移転する。

一一四、金沢神社 金沢市兼六町一―三 旧郷社

主祭神…菅原道真公、白蛇龍神、稲荷大神、琴平大神、前田斉広公、前田斉泰公

寛政六年（一七九四）、十一代治脩公が建てた藩校明倫堂の鎮守として金城靈澤の辺に創建される。文政三年（一八二〇）十二代斉広公が建てた竹沢御殿の鎮守と定め、災難除け

の神（白蛇龍神）、商売繁盛の神（稻荷大神）、交通安全の神（琴平大神）をあわせ祀る。十二代斉広公、十三代斉泰公を合祀した時期については分からなかったが、石川県神社誌の御祭神には記載がないため、平成に入り増祀されたものと考えられる。

### 一五、豊国神社 金沢市東御影町九三 旧郷社

主祭神・豊臣秀吉公、前田利常公

元和二年（一六一六）、卯辰観音山（観音町）に山王社と称して創祀され、秘かに豊臣秀吉公を祀り、別当観音院が奉祀した。毎年四月一日二日の祭礼に藩主が神事を献じ、観音院の御神事能と呼ばれたが明治元年（一八六八）に廃止された。明治十九年（一八八六）殿町に遷座、同四十年（一九〇七）現在地に遷座する。三代利常公は後に併祀された。

### 一六、小松天満宮 小松市天神町一 旧県社

主祭神・菅原道真公、前田利常公

三代利常公が小松城に隠居後の明暦三年（一六五七）、小松城の鬼門方角に崇敬する北野天神を奉斎した。明治八年（一八七五）土清水八幡宮に祀る利常像を遷して一社を建立し小松神社と称する。明治十二年（一八七九）二月小松神社を尾山神社に遷し本殿に仮鎮座、同年六月小松神社をゆかり深い小松天満宮に遷座して合祀する。

この由緒から考えるに、土清水八幡宮の由緒では利家公・利長公・利常公の三代を祀っていたとされるが、木像は利常公一体であったと考えられ、御祭神も「三代まで」ではなく、「三代」利常公のみと考えるのが妥当ではないだろうか。

一七、葭島神社 小松市大川町二一・二二 旧郷社

主祭神…倉稻魂神、大田神、大宮女神、火結神、宇加之神、八坂之神、笠縫之神、前田利常公

小松城築城前は葭島に鎮座していた。三代利常公が寛政十九年（一六四二）現在地に屋鋪・社堂・護摩堂を建立し、宝物什物とともに拝領する。正保元年（一六四五）小松城の守護神稻荷大明神を遷座する。ゆかり極めて深き利常公の御霊を古くより齋き祀る。

一八、祖霊社 小松市上本折町七二

主祭神…前田家歴代

多太神社（旧県社）の境内末社。多太神社は六世紀初めに男大跡王子（後の継体天皇）の勧請と伝えられ、衝枿等乎而留比古命、仁徳天皇、継体天皇などを祀る。寛永十七年（一六四〇）三代利常公が社地を寄進し、慶安二年（一六四九）の制札では能美郡総社に制定されている。神紋は皇室ゆかりということで菊花紋を使用していたが、明治四年（一八七〇）皇族以外の菊花紋の使用が禁止されたため、翌年菊菱紋と崇敬の篤かった加賀前田家の劍梅鉢紋に変更する。これまでの崇敬と家紋使用の遺徳を称えて同年祖霊社を建立し、加賀前田家の歴代ご当主を祀る。

一九、菅原神社 羽咋郡宝達志水町菅原フ二 旧県社

主祭神…菅原道真公、応神天皇、武甕槌命、前田利家公

天徳四年（九六〇）、菅公の遺臣國武、左官等が京都北野から神霊を勧請し天満宮と称す

る。祖神を祀る当社を利家公はじめ歴代ご当主は崇敬し、慶長十年（一六〇五）から三十二年毎に式年大祭が行なわれ、藩主の代参があつた。式年大祭では杉野屋観音堂の観音菩薩を迎え、当社の四祭神とともに御開帳が三日間（かつては五日間）行なわれる。前回は平成二十四年十月に開催された。

一〇、**高岡關野神社（稻荷社）** 富山県高岡市末広町九一五六 旧郷社

主祭神…稻倉魂命、菅原道真公、前田利長公

高岡關野神社には神明社、熊野社、稻荷社の三棟別々の本殿が建つ。神明社は関野郷上関村にあつたとされる加久彌神社。熊野社は射水郡水戸田村の密蔵寺から分霊して創祀され、慶長十四年（一六〇九）二代利長公が高岡城築城にあたり上関村に遷座した関野神社。稻荷社は高岡城築城にあたり稻荷大神を勧請して城の鎮守とし、慶長十九年（一六一四）利長公薨去に伴い利長公を合祀して関野神社境内に移転した。この三社を文化三年（一八〇六）現在地に遷座する。明治五年（一八七二）、加久彌神社は関野神社に合祀され郷社に、明治十一年（一八七八）稻荷社は高岡神社に改称して郷社となる。大正八年（一九一九）関野神社に高岡神社を合祀して高岡關野神社（県社）となる。

毎年五月一日に行なわれる高岡御車山祭（ユネスコ無形文化遺産）は当社の例祭。

一一、**有磯正八幡宮（合祀琴比羅社）** 富山県高岡市横田町九八 旧郷社

主祭神…大己貴命、石凝姥神、日本武尊、前田利長公

有磯正八幡宮は、有磯海の守護神として祀られた有磯宮と、横田正八幡宮の二社を合祀

して慶長十五年（一六一〇）に創建される。現在、有磯正八幡宮の右座に合祀された琴比羅社の御祭神に高岡を開町した二代利長公が祀られている。琴比羅社は鋳物の神として金屋町に祀られていた鎮守であったという。

### 一―二二、木町神社 富山県高岡市木町四三

主祭神…天照皇大神、菅原大神、前田利長公

慶長十四年（一六〇九）、二代利長公の高岡城築城と城下町建設に先立ち、木材集積地として千保川と小矢部川の合流地に木町が作られる。創立は不詳だが、その頃に鎮守として創建されたと考えられる。明治初めは天満宮の境内に神明宮が境内社として鎮座していたが、現在は本殿に天満宮と神明宮が合祀されている。境内の稻荷社は戦後に遷座された。

### 一―二三、天満宮 富山県黒部市宇奈月町愛本新二二八 旧村社

主祭神…前田治脩公（菅原大神）

荒野であった舟見野（雲雀野）一帯に十一代治脩公の援助を受け、十村の伊東彦四郎が寛政八年（一七九六）から享和二年（一八〇二）まで七年をかけて延長12キロにわたる愛本新用水を造り、用水が完成したことに住民が歓喜し、治脩公を御祭神として一社を建立し産土神とするともに用水の守護神としたことが始まりとされる。

寛政十二年（一八〇〇）四月に治脩公が視察に来、伊東彦四郎の案内で愛本橋の高にあった松の根方で休息したことにちなみ、中将松と称して大切にされてきたが、昭和五十六年冬に朽ち折れ、その幹の一部が社殿に保管されている。

#### 一―四、天満宮 富山県射水市塚越二二八 旧村社

主祭神…菅原道真公、前田利家公、前田利長公、前田利常公

富山県神社誌にも創立の由緒の記載がない。境内に建つ昭和十年の改築記念の碑によると、平安期に倉垣荘（現在の射水市東部と富山市西部にあたり、下村加茂神社が惣社）の住人が菅公の像を崇拜し、夢のお告げにより移住して土地を開いた場所が老田村という。その子孫が天正十三年（一五八五）、豊臣秀吉が佐々成政を攻めたとき、利家公の先鋒として偵察や夜襲の任にあたり、その報償として田三百石を授かる。そのまた子孫が嘉永二年（一八四九）、塚田村で起こった争いを仲裁し、安政元年（一八五四）争いの元となった地に菅公を祀る祠を建て空き地に花木を植え共同地としたのが神社創立の伝承と解した。

#### 一―五、八幡宮 富山県中新川郡立山町岩崎寺一

主祭神…応神天皇、神功皇后、稻脊入彦命、前田利家公、佐伯有頼公

雄山神社前立社壇（旧国幣小社）の境内末社。雄山神社は伊邪那岐神、天手力雄神を祀り、前立社壇、中宮祈願殿、峰本社の三社合わせて雄山神社とする。大宝元年（七〇一）、佐伯有頼が白鷹に導かれて立山を開山する。加賀前田家の崇敬篤く、二代利長公の正室永姫寄進の石造狛犬、十三代斉泰公寄進の湯立の釜が残る。

明治二年（一八六九）神仏分離に際し八幡宮と改称する。昭和十五年（一九四〇）、岩崎寺地内に鎮座していた新宮社（大国主命）、神明宮（天照大御神、保食神）、岩崎社（天日鷲命）、天神社（長白羽命）、若宮社（大日靈貴命、若年命）、西宮社（積羽八重事代主命）、

風宮（志那津比古命、志那津比女命）、嬰文社（天宇受売命）の八社を合祀する。

私見では、初期御祭神の五神は明治以前に別当岩嶮寺と呼ばれていた神仏習合時には、八幡大神（応神天皇）、比売大神（神功皇后）、佐伯氏の祖神（稻脊入彦命）、開山慈興上人（佐伯有頼公）、加賀前田家祖利家公という五体の木像だったのでないかと想像する。

#### 一―一六、祖霊社 滋賀県高島市今津町今津二八九

主祭神…前田利家公、前田斉泰公

住吉神社（旧村社）の境内社。住吉神社は弘安元年（一二七九）に創建される。琵琶湖の湖上交通の港と、北陸・若狭に分岐する街道との要衝の守護神として崇敬された。利家公が亡くなった後、正室まつが化粧料として今津に飛地を与えられたとき、利家公を祀る祭壇を設けるとともに、湖岸に石垣を築造したという。文久二年（一八六二）、十三代斉泰公が上洛の際幣帛料として白銀十枚を献じ、その後は通行毎に幣帛料を献ずる。その遺徳を称えて明治十六年（一八八三）社殿を建立し、利家公と斉泰公を祀る。後に氏子出身戦没者を合祀する。

#### 一―一七、前田神社 北海道岩内郡共和町前田口三〇〇 旧村社

主祭神…天照皇大神、前田利家公

明治十六年（一八八三）、土族授産のため十六代利嗣氏の援助を受け移住する。明治十九年（一八八六）、移住者の土着心を喚起する目的で神社を建立し、翌二十年（一八八七）、尾山神社から利家公の御分霊を迎え祀る。大正十年（一九二一）、風害で倒壊した岩崎部落

の天照皇大神を合祀する。

## 二、金沢城曲輪内に鎮座していた神社（金沢城ゆかりの神社・補遺）

### 二一、稻荷社 金沢市野町二丁目一八

主祭神・稻荷大神

神明宮（旧県社）の境内末社。元和六年（一六二〇）の金沢城内出火で焼け残った城内鎮守の稻荷社を、元和八年（一六二二）に裏鬼門にあった眞長寺が預かり、寛永十六年（一六三九）堂舎を香林坊橋辺りから現在地（野町一・二）に移転する。宝暦十二年（一七六二）隣家からの出火で付近269軒が焼失する大火でも稻荷社は無事に焼け残り、「眞長寺稻荷靈異記」が二度の類焼を免れた稻荷大明神の靈威を今に伝えている。

神仏分離に際し、明治七年（一八七四）稻荷社は泉野神社（神明宮）に遷座されたが、御神体は眞長寺に残され金沢稻荷（稻荷大明神）として祀られている。稻荷社は遷座に際し社殿ごと移され、後に末社蛭子社が合祀された。社殿には朱色の塗料が残っている。

### 二二、光松八幡神社 野々市市徳用町開二八 旧村社

主祭神・応神天皇

古来徳用村の鎮守として白山社があったが御神体がなかったため、明治四年（一八七一）村肝煎の仕平が徳を慕う十三代斉泰公に嘆願書を提出し、八幡宮の御神体、光松山八幡宮縁起、銭百貫文を授かる。この御神体は金谷御殿に祀られていた八幡神で、江戸牛込の穴

八幡神社から勧請された。当社には斉泰公揮毫の神号額と神号軸、斉泰公直筆の絵画、金谷御殿から移されたと伝わる石鳥居（斉泰公の正室溶姫寄進）や石造社号額が伝わる。

### 三、おわりに

加賀前田家は加賀・能登・越中の広い領地を長く治めていたこともあり、御祭神として祀られる神社は多い。歴代ご当主の功績や行為に感謝して祀られた由緒も多く、由緒から初めて知ったこともありました。神社から歴史を学ぶという楽しさをあらためて感じました。

### 参考資料

武士人格化の研究（二〇一七年・吉川弘文館）、石川県神社誌（一九七六年・石川県神社庁）、金沢市内神社写真帖（一九三二年・金沢市神職会）、尾山神社誌（一九七三年・尾山神社）、富山県神社誌（一九八三年・富山県神社庁）、滋賀県神社誌（一九八七年・滋賀県神社庁）、雄山神社前立社壇パンフレット、住吉神社パンフレット、石川県神社庁ホームページ、尾山神社ホームページ、金沢神社ホームページ、野々市市郷土資料館企画展「明治150年 徳用光松八幡神社と加賀藩前田家」、現地由緒他